
カツンと一蹴り

†アラクネ†

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カツンと一蹴り

【Zコード】

Z3614C

【作者名】

十アラクネ+

【あらすじ】

酔つて歩く、心地良い深夜の近所。足の先に何かぶつけたが、まあいいやと気にしない。だって酔っ払いって、そんなもんだろう？

ふらりふらりと歩いていた帰り道、足にカツンと硬い感触。なん、と曇げな視線を巡らせはしたものの、僕は特別気にもせず歩を進める。

いいのだ。無礼講、無礼講。

何せ今の僕は、天下無敵の酔っ払い。

上司を挙げて讃えて午前一時、体を張つた凜々しき企業戦士なり。

僕は見慣れた街並みの静寂の中を、ふらつく足取りで闊歩する。街の賑わいから少し離れた片田舎。深夜ともなれば、人や車の往来はほとんど無い。

我が物顔で縦横無尽に道を横切つていた僕だが、ふとある角を曲がつた自動販売機の前に、若い女の子の姿を発見した。明るい栗色のボリュームある巻き髪。胸を強調するようなTシャツに、だらけた灰色のスウェットパンツ。

成る程。いかにも深夜の徘徊に相応しい姿。

「お姉ちゃん、ジュースくらい奢つてやるよお」

ヘラヘラと笑つて、僕はすれ違ひ様に彼女の手元に千円札をヒラリと舞わせる。酔いの力とは恐ろしいものだ。

彼女が地面に落ちた札を拾つて振り返るより前に、僕は次の角を曲がっている。

ふらりふらりと歩く。

真夏の夜風が、じつとりと温い。

少し先の街灯の辺りに、気怠げに歩く人影を見付けた。

またもや若い女の子だ。ありがちな栗色の巻き髪に、ありがちな若者らしいワンピース。

短い裾から覗く白い足に、さりげなく視線を送りながら通り過ぎる。テクテク、テクテクと、自分の足音が耳に軽い。

「コンビニの駐車場の隅に、膝を抱えて座る女の子を見つけた。またもや栗色の巻き髪。服装はよく分からぬ。

心地良い夜風のせいか、酔いが少しずつ醒まされてきたようだ。ほんの少しだけ冴えた頭で、近頃の未成年は本当に個性がない、などと考えた。

もうすぐ我が家だと思った頃、いつも行く馴染みの酒屋の前に、じっと佇む女の子を見た。
やはり栗色のゆつたりした巻き髪、服装も若者特有の氣怠げなもの。

「夜中はあ、酒の自販機は止められてるよ~」

軽口を叩き、けれど背中に走った悪寒は何だ？！

僕は少し早足になる。

足早に進んだ道の先に、またもや若い女の子の姿。

鮮やかなキャミソール、瘦せて尖った肩を覆つのは、栗色のたつぱりとした巻き髪。

「……」

無言で通り過ぎる僕の背中を、密やかに振り返る気配がする。

「……っ」

ゾワリ。

冷たいものが走り、全身が一斉に泡立つた。

(何だよ……)

更に歩くスピードを早めながら、僕は「コンビニ」と腕を摩る。
(夜道に怯えるなんて、それこそ小娘じゃあるまいし)

嘲笑気味に、軽く自分を叱咤してはみるものの。

ふいに頭に浮かんだのは、不吉で良からぬ嫌な記憶。

(そういえば)

三ヶ月ほど前に、近所で起こった死亡事故。

(確か、さつき通つて来た場所が……)

免許取り立ての若い女の子が、深夜にアクセルとブレーキを踏み間違えて、電柱に猛スピードで激突。

運転手の少女は即死。その遺体はあまりにも惨たらしく、駆け付けた母親はそれを見るなり、

……気が触れて、おかしくなつてしまつた程だつたとか……。

「……」

ぞくり。

悪寒と共に、残つていた酔いが瞬時に遠退く。

(さつき、事故現場の横を通りてきたよな)

そうだ。確かにそうだが、駅から自宅までのルートなのだから仕方ない。ずっと前からいつも歩いている道だし、何よりあの事故の後だつて何十回も通つている。事故のことなど気にしたこともない。

……なのに、今に限つてこんなにもあの事故が気になつてゐるのは何故か？

カツン。

小気味よい音。

靴の先に当たる固い感触。

僕の革靴が弾いて飛ばした。

(何を?)

アスファルトの地面に叩かれ弾んだあれ。

(……写真立て)

そう、写真立てだ。

先程僕が蹴り飛ばしたのは写真立て。真つ白な花が活けられたいくつもの花瓶の前に、下に白いハンカチをひいて丁寧に置かれていた……。

(事故で死んだ女の子の写真が入つた……)

ゾワアッ。

そこまで考えて、僕は慌てて頭を振つた。

下らない。

いい年して、一体何を考えているのや。」

わざとらしく馬鹿に明るい鼻歌など漏らしてみる。少し先に、よ
うやくアパートの明かりが見えてきた。

(……やれやれ)

見慣れたその姿にホッとする。一つ安堵の溜め息を吐くと、僕は
何とはなしに来た道を振り返り。

次の瞬間、深夜の静寂に轟もない大絶叫が響き渡っていた。

振り向いた視線の先には、無惨に潰れてひしゃげた軽自動車が横
たわっていた。

生々しくオイルを垂らし、燻った黒い煙を上げる、かつては自動
車だった鉄の塊。

歪んで砕けた窓の隙間から、今まさにぬるりと突き出したのは、
血まみれの人の手ではないのか。

ビクビクと痙攣しながら折れたワイヤーを掴み、ぎこちなく軋ん
だ音を立てて少しづつ這い出してくる。

「……あ、あ、あ」

口を絶叫の形のまま開きつ放しに、僕はその場に固まつて喘いだ。
(まさか、だつてあんな、あんな事くらいで…)

街灯の薄い光に影を引き、横転した車の窓からゆづくじと、血に
塗れた少女の頭が突き出してくる。

「ひつ……！」「う、うああああああーー！」

その無惨な顔を見てしまうより早く、僕は恐怖に弾かれて猛然と
走り出した。

(わざとじやない、わざとじやない！ 酔つてたから、だから)

必死で言い訳を念じつつ、死に物狂いでアパートを目指す。心臓
が恐ろしいくらいに激動し、涙と汗がドツと噴き出して流れ
(悪気なんか無かったのに！ あんな、あんなことくらいで、こん
な)

僕は歯をガチガチと鳴らしながら、アパートの階段をもつれる足で駆け登った。

……、

カンカンカンカン！！

一拍子置いて、後ろから階段を駆け上がってくる足音。

「ヒイツ！？」

短い悲鳴を上げ、脱兎の如く自室の扉に駆け寄る。

鍵、鍵、鍵、鍵！

部屋の前で落ち着きなく足踏みしながら、必死でポケットをまさぐる。

指先が鍵に触れたと思った瞬間、開くはずのない扉が突然開いた。「！？」

驚きに目を見張ったその次には、いきなり一本の腕に肩を掴まれ、否応なく部屋の中に引きずり込まれる。

背後で叩き付けるように扉が閉まる音、鍵の掛けられるガチャンという音に絶望した。

「き……、きやあああああっ！？」

閉じ込められた、と慄いて見開かれた僕の目は、闇に浮かぶ彼女の惨状を至近距離から見てしまつ。

蒼白な顔の中にある、白く濁った目を。半開きになつた土氣色の唇から覗く、灰色の舌を。暗く虚しい死者そのものと成り果てた、かつては美しかつたであろう少女の砕けた赤い顔を。

「きやああ、きやあああっ！……」

再び女のような情けない悲鳴を上げ、僕は無茶苦茶に暴れて冷たい腕から逃れた。

玄関扉に強く背中をぶつけたようだが、痛みは全く感じない。闇に浮かぶ少女を凝視したままガクガクと震え、手探りで慌ただしくドアノブを求める。

（許して、許して、許して、許し……）

汗で滑る掌が金属製のドアノブを掴んだ途端、突然それがガチャ

ガチャと回り出した。

「…………！」

心臓が激しく跳ね、カラカラに渴いた喉からは悲鳴さえ出ない。もはや失神寸前の僕に追い打ちをかけるように、鉄の扉がドン！ ドン！ と鈍く揺れる。

「…………！」

激しく何かが扉に体当たりする音、金属が激しく軋む音に混じつて聞こえた、醜く歪んだ獣のような怒号。

『開ける…………』

(…………！？)

全身を冷たい汗でびっしょりと濡らしながらも、僕は辛うじて硬直した体を捻ることに成功した。

ガチガチと歯を鳴らして恐怖に涙を滲ませながら、恐る恐るドアスコープを覗き込む。

魚眼レンズの歪んだ視界の向こうへ。

それを見た瞬間、僕はついに腰を抜かして玄関に崩れ落ちた。

『開ける…………開ける開ける開けるおおお…………』

醜く歪んだ怒鳴り声。

『お前お前お前よ／＼もあたしのあたあたしの娘の写真ををををを！』

扉の向こうでは、髪を振り乱し目を真つ赤に充血させた中年女が、すごい勢いで包丁を振り回していた。

(娘の遺体を見て、気が触れた、母親……)

脱力した僕の股間がじわりと温かくなり、玄関の床に水溜まりが広がる。

薄ぼんやりと浮かび上がっていた少女は、そんな僕に視線を落とすでもなく。

ただ悲しげに目を伏せ、溜め息のような音を残して、ひつそりと闇に溶けて消えていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3614c/>

カツンと一蹴り

2010年10月8日15時31分発行